



なしの木

夢と笑顔と「ありがとう」が
あふれる 長幡小学校
令和6年 1月 9日
第 18号

上里の子供たちを育てる合言葉：あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃（膝つき清掃）

【校長賞】提出された冊数：222冊 1冊以上提出した児童数：81名 12月22日現在

新年あけまして

おめでとうございます

2024年（令和6年）がスタートしました。また、1月9日から3学期もスタートし、3月22日（卒業式）、26日（修了式）に向けて教育活動が展開されていきます。3学期も風邪やインフルエンザ、新型コロナウイルス等の感染も心配されるところですが、健康管理には十分留意し、現学年の最後の学期をしっかりと締めくくりたいものです。本年も職員が一枚岩となって教育活動に当たっていきますので、より一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。



もったいない！食品ロス

2学期の終業式では、食品ロスの話を子供たちにしました。「飽食の時代」と言われるように、私たちの食生活は豊かなものとなりました。その反面、まだ食べられるのに捨てられてしまう食物も膨大な量となっています。日本国内の食品ロスは約522万トン（令和2年度）となり、日本人1人がお茶碗1杯分の米を毎日廃棄するのと同じ量となっています。廃棄されるものを焼却するため、二酸化炭素の発生、地球温暖化を招くことになります。

食品ロスの問題は、日本だけでなく世界規模の問題となっています。ものが豊かになったとはいえ、飢えや栄養で苦しんでいる人々



日本人1人当たりが、
毎日お茶碗1杯分のご
飯を捨てていることにな
ります。

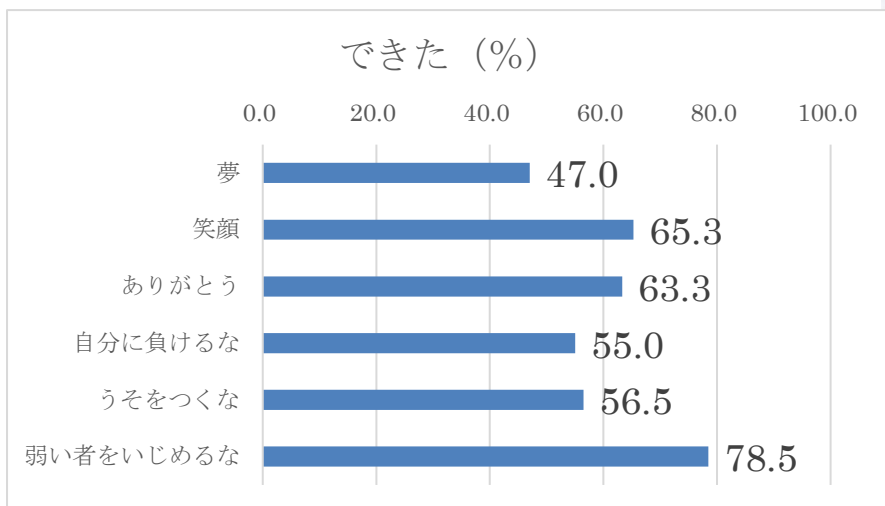
が世界で約7億7千万人（世界人口の10人1人）いると言われてしています。これらの人々への世界の食糧援助量は年間420万トン。日本の食品ロスの量は、この1.2倍を超えています。

食品ロスを減らすには、それぞれの立場で、一人一人ができることを考え、実践していくことが求められます。食べ物を大切にする心が、食べ物以外のものも大切にする心へつながっていくことを願っています。

フードロス削減



児童自己評価



目指す学校像と「3心」について子供たちに自己評価をしてもらいました。2学期を振り返って「できた」「だいたいできた」「あまりできなかった」「できなかった」の4段階で評価してもらい

ました。「できた」と回答した児童の割合は、上のグラフのとおりです。「弱い者をいじめるな」が78.5%といちばん高くなっています。「できた」「だいたいできた」を合わせると、94.0%となりました。また、「夢」については、47.0%といちばん低くなっていますが、「だいたいできた」を加えると、82.5%となります。子供たちが目指す学校像や「3心」について、よく取り組んでくれていると思います。3学期のがんばりを楽しみしています。

【3学期の評価項目】

「夢」～自分の願いや思いのこもった目標やめあてを持ち、粘り強く取り組むことができる。

「笑顔」～友達を笑顔にすることができる。

「ありがとう」～「ありがとう」だけでなく、他の挨拶もできる。

学校給食週間

学校給食は明治22年、山形県鶴岡町の忠愛小学校で、弁当を持って来られない子供たちのために始まりました。それ以来、各地に広がっていきましたが、昭和18年頃になると、戦争が激しくなったため、食糧が不足して給食も中止となりました。



最初の学校給食（明治22年）
おにぎり・塩鮭・菜の漬物

た。昭和20年8月に戦争が終わり、昭和21年

12月24日より学校給食が再開されました。これを記念して、12月24日を「学校給食感謝の日」と決めました。12月24日は冬休みとなるため、1か月遅れとなる1月24日～1月30日を学校給食週間としました。

子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は、子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。



食育ピクトグラム